

監督が複数の陸上部員達に性的な指導をしまくる話。

基本CG10枚

総枚数28枚

gw

陸上で鍛えた体を監督が犯し尽くす、。。。。

陸上部員の話。

私たちは日々練習に励んでいます。でも、それはいい記録を出すためではありません。でも、それは練習で鍛えられたこのムチムチの体を監督に抱いてもらうため。。。。







「あ、♡か、監督、♡♡」

練習中、監督にお尻を掴まれてしまいました、♡♡。

これは監督の性処理をするという合図です、♡♡。

「ふふ、触り心地のいい素晴らしい尻だな、♡♡。」

「あ、♡ん、♡あ、ありがとうございます♡さいます監督、♡♡」

「なあ、この後、いいか？」

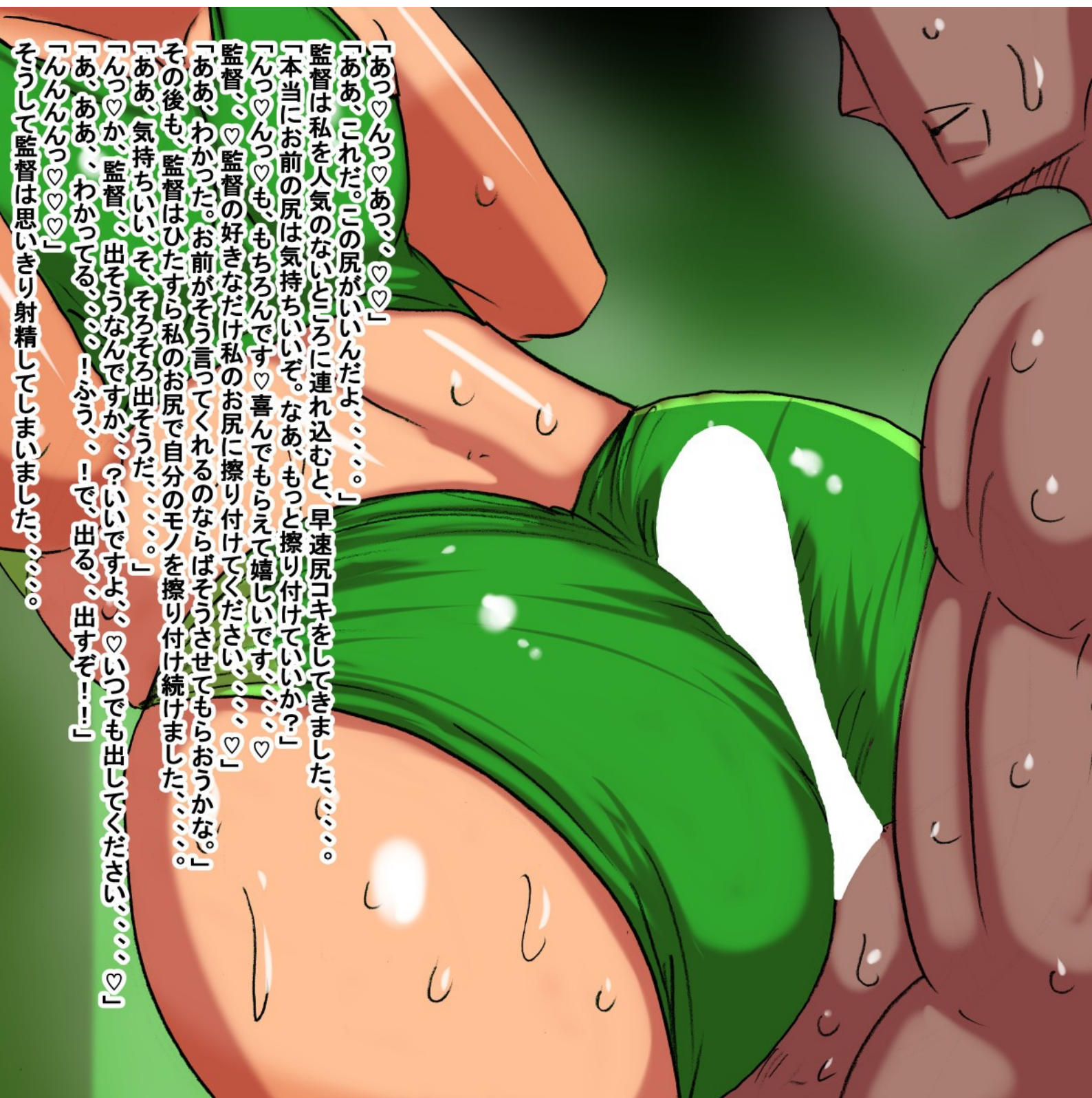
「は、はい、もちろんです監督、♡♡♡監督の好きなだけ私の体、お使いください、♡♡♡」

私たちは監督のやることは全て受け入れます。性処理はもちろん、セックスも、♡♡。

むしろ、私たちは皆監督とセックスがしたいと考えています、♡♡。







「あつ♡んっ♡あつ、♡♡」

「ああ、これだ。この尻がいいんだよ、。。。」

監督は私を人気がないところとに連れ込むと、早速尻コキをしてくれました、い。。。

「本当にお前の尻は気持ちいいぞ。なあ、もっと擦り付けていいか？」

「んっ♡んっ♡も、もちろんです♡喜んでもらえて嬉しいです、。。。♡」

監督、♡監督の好きなだけ私のお尻に擦り付けてください、。。。♡」

「ああ、わかった。お前がそう言ってくれるのならばそうさせてもらおうかな。」

その後も、監督はひたすら私のお尻で自分のモノを擦り付け続けました、。。。。

「ああ、気持ちいい、そ、そろそろ出そうだ、。。。。」

「んっ♡か、監督、出そうなんです、か、。。。いいですよ、♡いつでも出してください、。。。♡」

「あ、ああ、わかつてる、。。。！ふう、。。。で、出る、出すぞー！」

「んんんんっ♡♡♡」

そうして監督は思いきり射精してしまいました、。。。。





「ああ、この練習で汗をかいだブルマが最高なんだよな、、、、。」

「んああ♡か、監督、♡だ、だめです、、、、♡♡」

練習後、着替えようとしていたところに監督が急に現れ、私を押し倒してお尻の嗅がれてしまいました、、、、。

「ふあっ♡んっ♡んっ♡」

「ああ、いい匂いだ、、、、。汗といやらしい雌の匂いがするぞ、、、、。」

なあ、本当は今日、俺とセックスしたかったんだろ？」

「んんっ♡♡そ、それは、、、、♡」

「さて、味はどうかな？」

そう言っていると、監督は舌で私のアソコにむしゃぶりついてきました、、、、。

「ふあああん♡あ♡ああああん♡♡」

「ほらほら。こんなに美味しくてトロトロなアソコになってるぞ。ずっとセックスしたかったんだろ？」

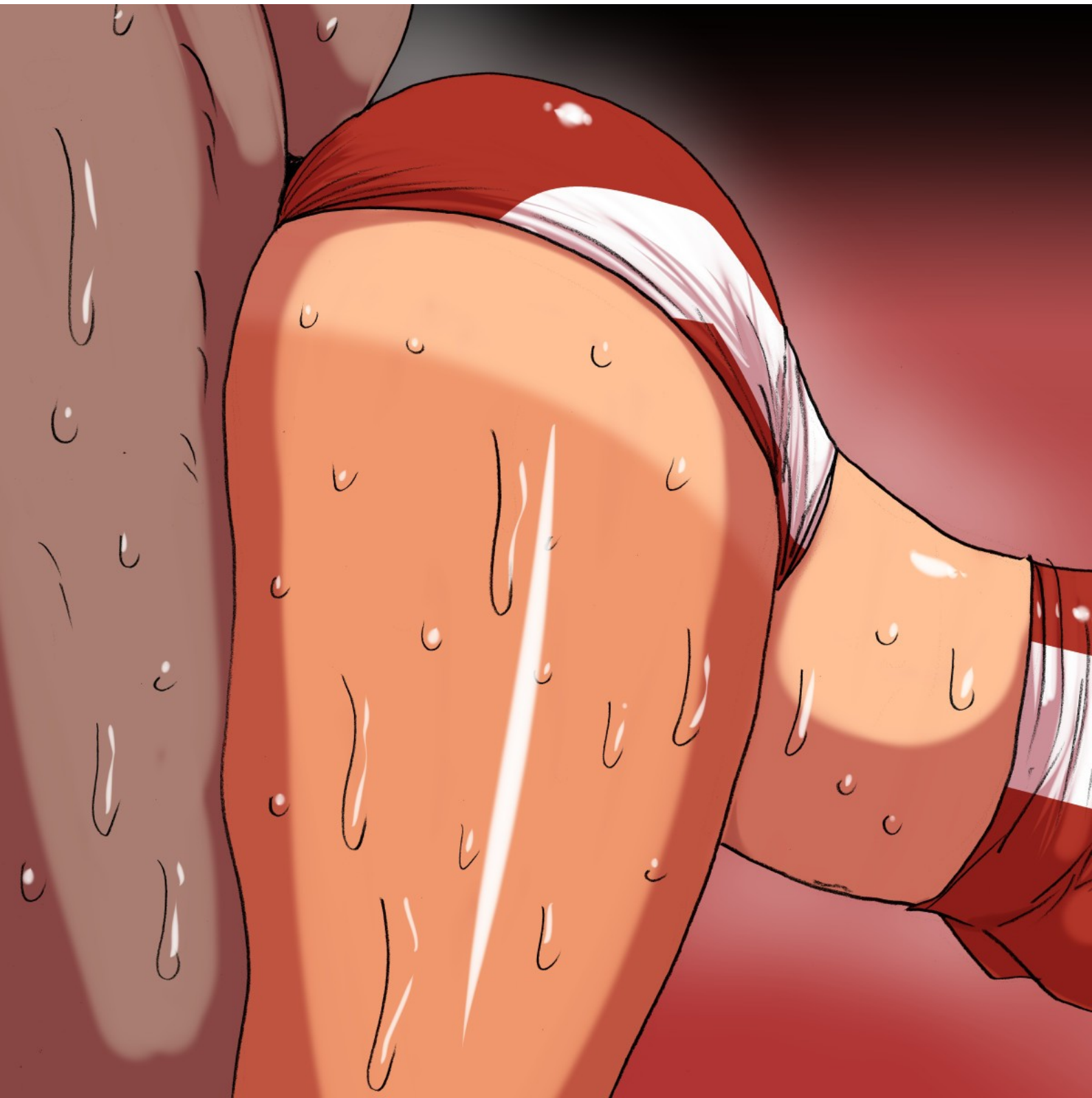
正直に言いたまえ。」

「あふ、♡んっ♡は、はい、♡私はずっと監督とセックスしたいと思いながら練習

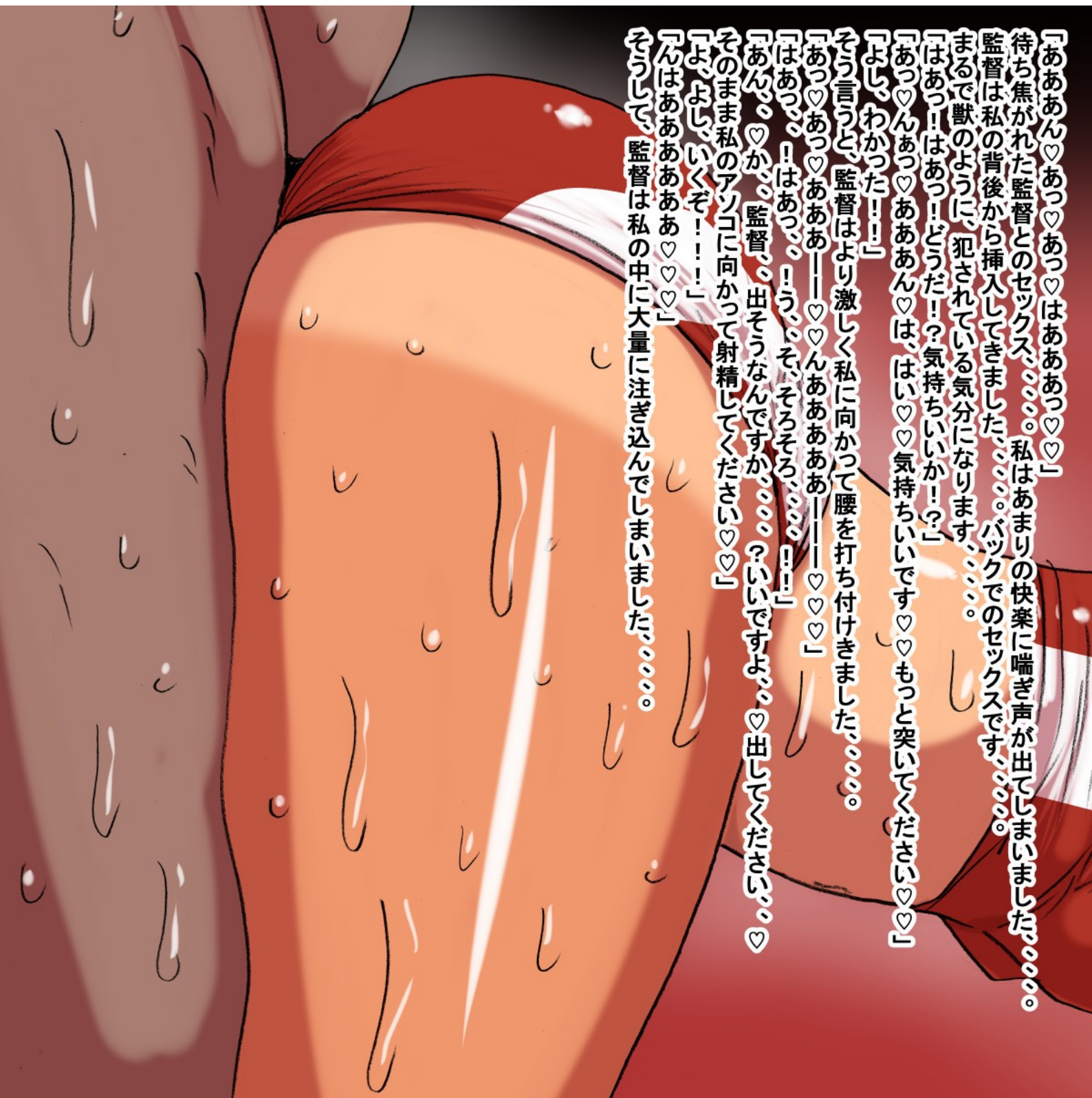
していました、、、、♡お、お願いします、♡監督♡わ、私とセックスしてください、、、、♡♡」

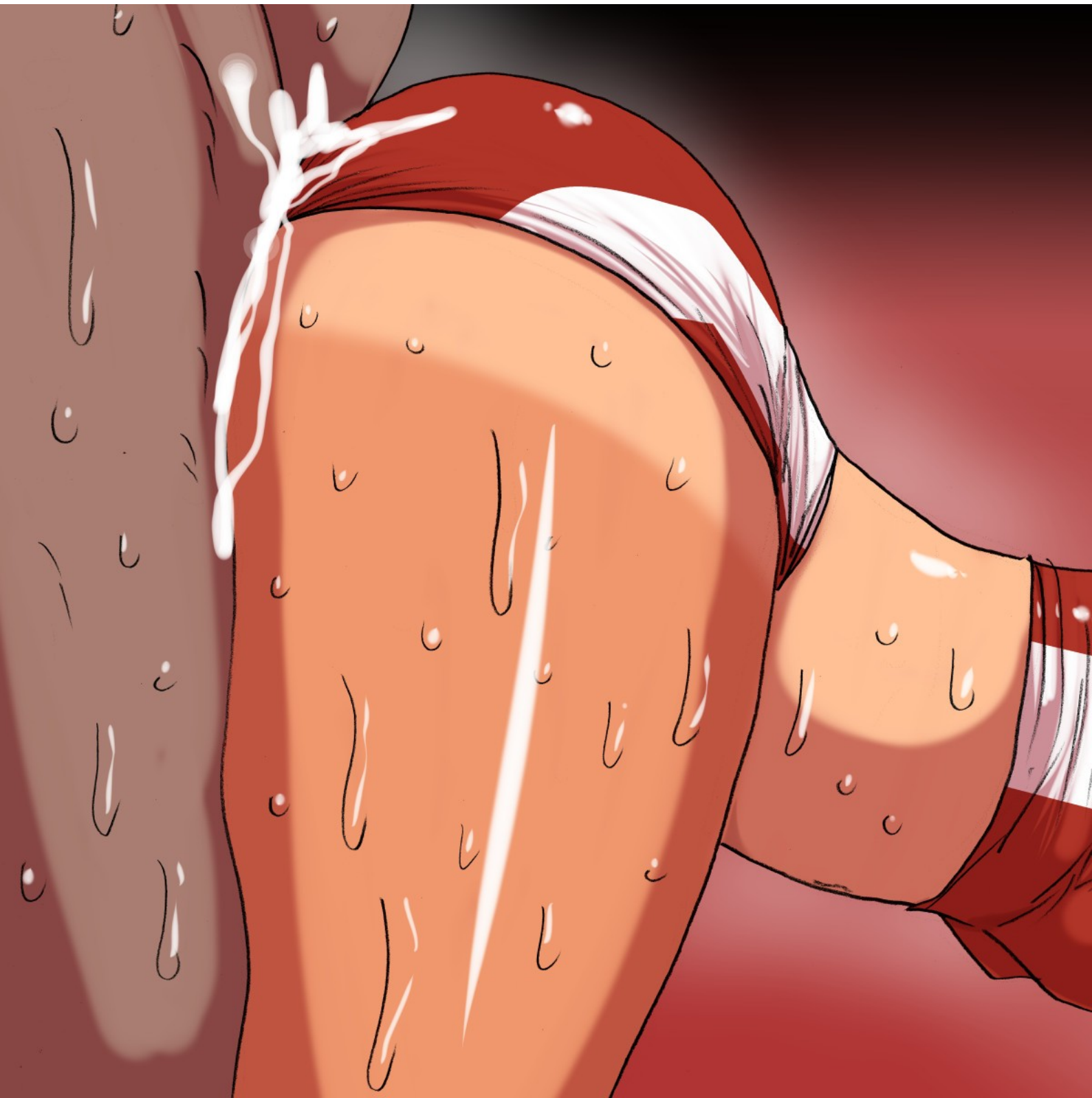
「ふふ、教え子にそこまで言われたら断る理由なんてないな。」

そして、私は監督のモノを挿入させていただきました、、、、。



「あああん♡あつ♡あつ♡はあああつ♡♡」
待ち焦がれた監督とのセックス、……。私はあまりの快楽に喘ぎ声が出てしまいました……。
監督は私の背後から挿入してきました、……。バックでのセックスです、……。
まるで獣のように、犯されている気分になります、……。
「はあっ!!はあっ!!どうだ!?気持ちいいか!?!」
「あつ♡んあつ♡あああん♡は、はい♡♡気持ちいいです♡♡もっと突いてください♡♡」
「よし、わかった!!」
そう言っていると、監督はより激しく私に向かって腰を打ち付けました、……。
「あつ♡あつ♡あああ——♡♡んああああ——♡♡♡♡」
「はあっ、!はあっ、!う、ト、そ、そろそろ、……。!!」
「あん、♡か、監督、出そうなんですか、……。?いいですよ、♡出してください、♡
そのまま私のアソコに向かって射精してください♡♡」
「よ、よし、いくぞ……!!」
「んはああああああ♡♡♡♡」
そうして、監督は私の中に大量に注ぎ込んでしまいました、……。









来る日も来る日も陸上の練習は続きます、。。。。

大変ですが、嬉しいことや気持ちいいことの方がたくさんあります。

何よりも嬉しくて気持ちがいいのは監督とのセックスです、。。。。

毎日抱かれることを心待ちにしながら練習しています、。。。。



「ぐっ、！ふっ、！ふっ、！ふう、！」

練習中、監督に性処理をするために呼び出されました、。

監督はブルマの中に挟み込んで擦り付けたいというので、言う通り、お尻を突き出して監督が擦り付けやすいポーズをとりました、。

「んっ♡んっ♡か、監督、どうですか、？気持ちいいですか、♡♡？」

「あ、ああ、実に気持ちいい、。す、すまないな、練習中に、。」

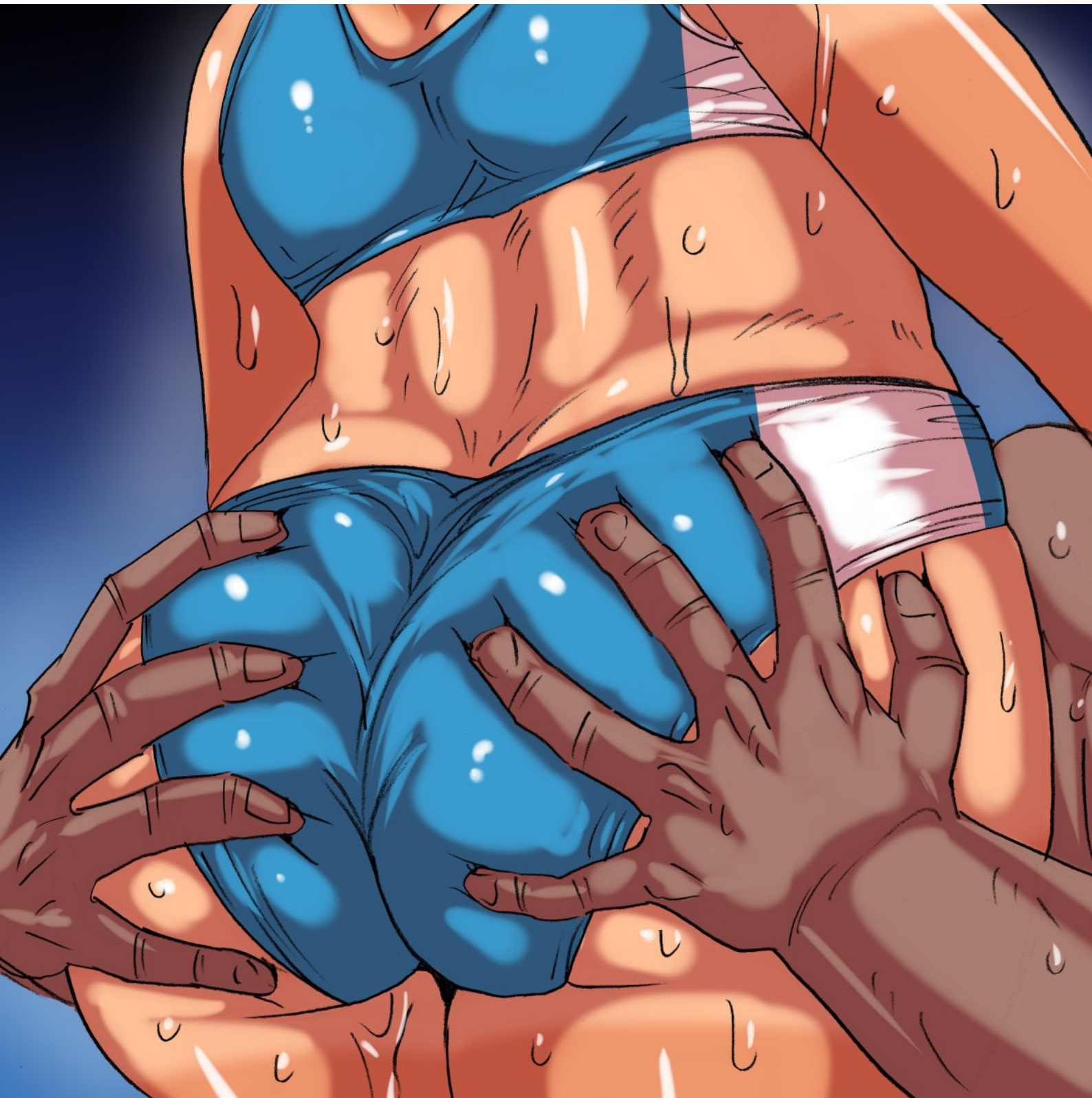
「んっ♡と、とんでもないです♡♡たっぷりとお使いください監督♡私のこの鍛えられた体、♡♡」

「ふっ、！ふっ、！ふっ、！ぐっ、！ふう、！ふう、！」

そして、監督は間もなく私のブルマの中に射精してしまいました、。









「ん、♡は、♡はあん、♡♡♡」
監督に呼び出された私は、監督にお尻を揉みしだかれてしまいました、……。
それも長い時間、……。
「ん、♡はあ、♡あ、あの、監督、いつまでするつもりですか、……。？」
「ん、わからない、……。お前の尻の揉み心地があまりにいいものでな、……。なあ、
もっとしたらだめか？」
「い、いえ、♡監督がそうしたいのならはお好きなだけ私の尻、堪能してください、♡」
「そうか、悪いな。ありがとう。」
そして、そのまま長い間私は監督にお尻を揉みしだかれてしまいました、……。



「あつ♡んあつ♡はあん♡♡」

監督が私のお尻を揉みしだく行為が終わると、そのまま着衣セックスに移行しました。。。。
長時間揉みしだかれてしまったおかげで、私のアソコはトロトロになっていました。。。。

「ぐっ、！ふっ、！ふっ、！ふっ、！あぁ、いい、気持ちいいぞ。。。。！」

「んっ♡はっ♡ああん♡わ、私も気持ちいいです。。♡監督。。。。♡♡」

その後もお尻を揉みしだかれていた時と同様私は長時間監督にアソコを突かれ続けてしまいました。。。。

「んっ♡んっ♡んっ♡」

「ど、どうだ、？そろそろやめるか。。。。？」

「はあん♡い、いえ、大丈夫です。。♡監督の好きなだけ私のアソコ、お使いください。。。。♡」

「そ、そうしたいところだが、そろそろ俺の方が限界みたいだ。。。。！」

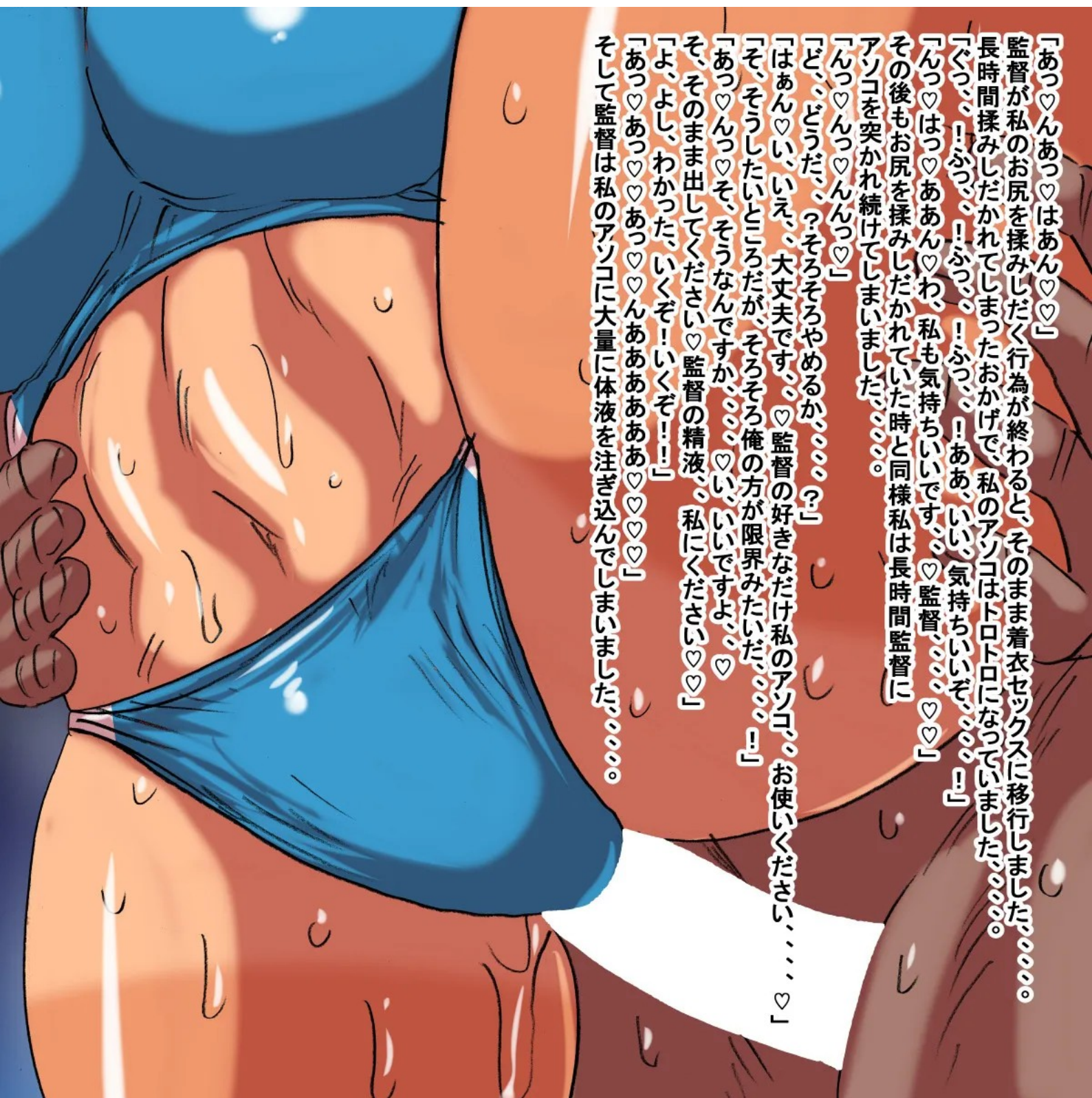
「あつ♡んっ♡そ、そうなんですか。。。。♡いい、いいですよ。。♡」

そ、そのまま出してください♡監督の精液、私にください♡♡」

「よ、よし、わかった、いくぞ！いくぞ！！」

「あつ♡あつ♡あつ♡♡んああああ♡♡♡♡♡♡」

そして監督は私のアソコに大量に体液を注ぎ込んでしまいました。。。。







「んっ♡んっ♡んはあっ♡」

「悪いな。急に呼び出して。」

「い、いえ、♡監督ならいつでも大丈夫です、♡♡」

夜、家にいると監督から陸上着を着た私とセックスをしたいというお声を頂きました、♡♡♡。もちろん断る理由などありません。私は早速監督の家に向かいました。

監督とセックスできる、♡♡、それだけで私の体は喜びを感じていました、♡♡♡。部屋に入るとすぐに、私は監督に抱かれました、♡♡♡。

「んっ♡んっ♡か、監督、気持ちいいですか、♡♡、？」

「ああ、実にいい。最高だよ。なあ、朝までお前の体、使ってもいいか？」

「んっ♡はあっ♡も、もちろんです、♡監督、♡監督の言うことは何でも聞きます♡だから好きなだけ私の体、お使いください♡♡」

「そうか、わかった！」

「はああああん♡♡」

その日、監督は言葉通り私と夜が明けるまでセックスし続けました、♡♡♡。監督と♡んなに長い時間肌を重ね合わせることができて私は幸せです、♡♡♡。





この度は当サークルの作品をご購入くださりありがとうございます。

陸上部の話です。4連続の最終作品となります。ここまでお付き合いいただき
ありがとうございます。このあともすぐ新しい作品を公開できればと
考えておりますが、果たして。 s

陸上関連作品(公開予定含)

l p s s t u x y ab
gg gh gi gj gk gl gm gn gt gu gv ar ce cf cg db dc di do fe ff fg
gw

当サークルホームページ等専用のページを開設致しました。
これらにおいても創作活動を行っておりますので、よろしければご確認ください。

Ci-en:<https://ci-en.net/creator/4749>

Fantia:<https://fantia.jp/fanclubs/27877>

※当サークルの作品は全てフィクションです。実在する人物との性行為、およびそれに準ずる行為を行う際は決して強要することなく、お互いの明確な同意、理解、許可を得た上で行いましょう。

※当サークルの全作品の無断転載(購入されてない方が閲覧できるようにする)等の行為はご遠慮願います。ご協力の程、よろしくお願い致します。